

## 2月の金融・マーケット動向

### 早期是正措置の是正

今月18日、預金保険法の改正案が国会に提出された。注目されるのは、早期是正措置の補強を目的に、新たな破綻処理の枠組みが入っていることである。今までは、金融機関が債務超過に陥るか、預金払戻しが停止される恐れが発生した場合に破綻処理に入ったが、債務超過に陥る前でも「事業継続が困難」との申し出があれば破綻処理に移行できる制度となる。金融機関の申請がなくても、金融庁が裁判所へ申立てることによっても金融機関が更生手続に入れるようになる。尤も施行は1年先の、来年4月1日とゆっくりとしてはいるが。

この新法の目的は、破綻処理コストの抑制である。現実の破綻処理コストの止めど無い膨張が、当局を動かしているようだ。

### 長短金利逆転の発生

今米国で、長期金利と短期金利の逆転という現象が発生している。長短金利逆転という通常考えられない現象は、かつて日本でも長期間続いたが、この現象が米国で発生したという事実は、とても興味深い。

主要金利の推移表を見ると、我が国で長期金利（10年もの国債）と短期金利（CD3ヵ月もの）の金利水準が逆転したのは、1989年であり、それが概ね終了したのが1993年である。金利だけで判断する積もりは更々ないが、米国金融市場の活況ももう終りに近づいているのかも知れない。

一般に、期間の長い金利の方が短いものより高くなる。期間というリスクが伴うから当然だ。それが逆転した。バブル崩壊時日本で起こった現象が今米国で起こっている。このことをどう理解すべきか。

### 不良債権総額100兆円

20日の日経新聞に、大手17行の不良債権最終処理額が累積で42兆円になったことが出ていた（出所は金融監督庁）。不良債権総処理額の80%がバランスシート上から切離された訳で、財務体質の改善は着実に進んでいると見られる。だがこれらの数字から推測すると、金融機関全体で処理を要する不良債権は総額で100兆円に達したと見るのが妥当と思う。

100兆円！口で云うのは簡単だが、この天

文的金額は私達の愚かな行為の累積だと捉える必要がある。

人間は何時でも何処でも間違いをおかす。とすれば、間違いをおかすことを前提に物事を組み立てる方が賢明だ。その仕組みをどう作るか。チェックシステム、助言・諫言システム等がそれに当たるだろうが、ディスクロージャー（情報開示）もその一つだと思う。この10年間の金融当局や昨今の警察不祥事を見ていると、隠蔽体質は人間の誤りを助長する。

### 引下げ進む外為手数料

異業種の外為業務参入が、両替手数料の低下を促進している。銀行での外貨両替手数料（個人向け外貨預金、外貨送金の場合）は、長い間片道1円（往復で2円）が常識であったが、商品先物会社や証券会社が外為仲介業務に参入し、手数料引下げで銀行の独占に風穴を開けようとしている。実際、往復12銭、同20銭等銀行比8～9割安の手数料も出てきた。

商品先物会社は今だに投機的行動を積極勧誘するという古い体質から脱却出来ないでいるが、使い方によっては外貨送金手数料が劇的に下がるケースが出てくるようだ。

### 銀行株時価総額、10%割れ

東証一部全体の時価総額に占める銀行株の比率が遂に10%を切った。私がこのデータに注視し始めた当時（94年頃）、この比率は25%を超えていた。その当時米国では、この比率が10%を切っていた。日本でも、時間はかかっても同じ方向に向かうのではないかと予想していたが、それが現実化してしまった。一寸複雑な気持であるが、この事実は重要なメッセージを伝えている。

銀行株の地位低下は、日本でも間接金融優位が崩れ直接金融への転換が進むことを指し示している。

### 「再生」委員長の冗談

東京都の銀行への外形標準課税導入問題で、石原都知事から「あの人、官僚でしょう」と痛烈なパンチを食らった人が、バブルで名高い足利銀行の地元で元大蔵官僚らしい本音を言って失笑を買った。こんな古い体質の人が、金融「再生」委員長だとは。悪い冗談はいい加減にした方がいい。